

## 血液材料のための猫コロナウイルス定量遺伝子検査を開始しました

猫伝染性腹膜炎(FIP)診断のための猫コロナウイルス(FCoV)遺伝子検査の材料として、一般的に体腔内貯留液(腹水や胸水)、血液(全血)や脳脊髄液が適用されています。ラボ間の違いはありますが、体腔内貯留液および脳脊髄液を材料とした場合はFIPの診断に対する特異度が高く、陽性の結果はFIPの関与を強く示唆するものとなります(弊社での特異度はほぼ100%)。一方、血液材料中には未発症のFCoV感染例であっても検出可能なウイルス量が存在している例があり、陽性の結果は必ずしもFIPの診断に繋がるわけではありません(弊社では75%の特異度)。

しかし、FIP症例と非症例を比較した場合、前者の方が血中のウイルス量が高い傾向があり、定量的にFCoV遺伝子を測定すればFIP診断の特異度が増すことがこれまでに報告されています。この度、弊社では血液材料に対してFCoV遺伝子を定量的に測定できる検査を開始させていただくことになりました。

詳しくは弊社ホームページ(<https://www.m-lt.co.jp/>)をご覧ください。

FCoV定量遺伝子検査は2021年1月12日(火)弊社到着分より開始させていただきます。本検査開始に伴い、血液材料についてはこれまでの定性法(RT-PCR)によるFCoV遺伝子検査を終了させていただきます。なお、体腔内貯留液(腹水や胸水)および脳脊髄液のFCoV遺伝子検査は引き続きこれまでの定性法で検査いたします。

	項 目	検査方法	検査材料	所要日数 ※2
新	猫コロナウイルス (FCoV) 定量遺伝子検査	RT-qPCR	EDTA 処理※1 全血 1mL	5日以内
引き続き 実施	猫コロナウイルス (FCoV) 遺伝子検査(定性)	RT-PCR	腹胸水、脳脊髄液 0.3mL	5日以内

※1:ヘパリン処理だけでは凝固により遺伝子の抽出が不十分となることがあるため、全血材料は必ずEDTAで処理してください。

※2:所要日数は弊社到着日を0日とした営業日換算(土・日・祝日・弊社指定休業日は含みません)となっております。

マルピー・ライフテック株式会社  
TEL:072-753-0335、FAX:072-754-2208  
E-mail:[support@m-lt.co.jp](mailto:support@m-lt.co.jp)

## 弊社における臨床試験結果

FIP が疑われる例と未発症 FCoV 感染例のうち遺伝子が検出されたそれぞれ 199 例、62 例について FCoV 定量遺伝子検査(RT-qPCR)で血中ウイルス量を測定したところ、前者が後者に比べて統計学的に高いウイルス量が測定されました( $p < 0.0001$ ) (下図※3)。

※3:弊社ホームページ(<https://www.m-It.co.jp/>)にアップしていますので、そちらをご覧ください。

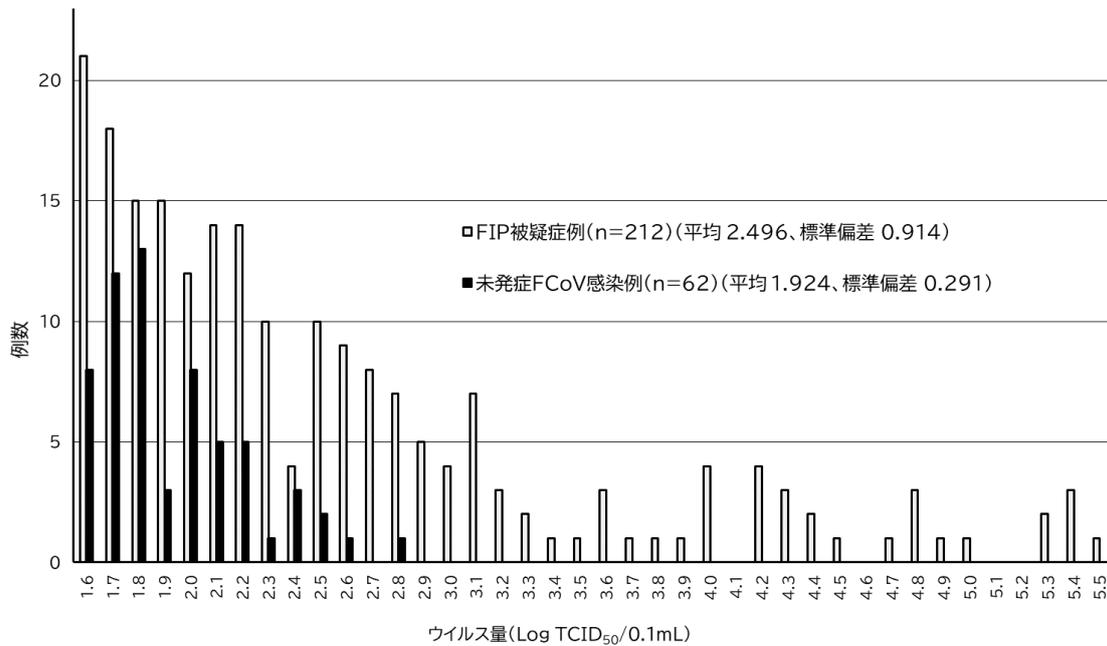


図. FCoV定量遺伝子検査によるFIP被疑症例と未発症FCoV感染例の血中ウイルス量の比較。

## FIP の診断基準の設定

上述の未発症 FCoV 感染例でのウイルス量から本遺伝子検査の FIP 診断における特異度を統計学的に解析し、以下のようなコメント作成いたしました。なお、本検査の結果だけでなく、他の検査結果とあわせて診断してください。

ウイルス量 (Log TCID <sub>50</sub> /0.1mL)	特異度	コメント
1.6 未満	50%未満	
1.6~2.2	50%	
2.3~2.5	80%以上	FIP の可能性がある。
2.6~3.0	93%以上	FIP の可能性が高い。
3.1 以上	ほぼ 100%	FIP の可能性が極めて高い。